

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会 無所属会派所属議員

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361(fax 兼用)
市議会議員 吉田つとむ
yoshidaben@gmail.com



被爆体験講話の聴講報告

運よく生き残った方が、伝承者を務める

被爆体験の講話は八幡照子さんという方でしたが、8歳で被爆された自分の体験を話していただきました。めったに聞けない貴重なお話でしたが、世界を一周して講演されたこともある方でした。そのために英語で講演するのも覚えたとのことでした。お友達が幾人もなくなっていることはもちろん、現在の被爆体験の講話をなさる方もお亡くなりになる方が出ているとのことでした。伝承の大事さを感じさせるものでした。実に明瞭に話されましたが、その悲惨さをリアルに話されました。淡々とした話に涙を誘うものが出ていました。現在では、その話に基づいた絵を地元の高校生が再現してくれているそうですが、何度も確認してその絵が出来ているそうです。

この後半の話は初めて聞きました。被ばくを自身が体験したとして、それを自分が全部を人に言えることが本来でしょうが、言葉では言い尽くしがたいものと推測しました。

その意味では、被ばく者自身とそのずっと後の世代が会話をし、絵として表現する作業は、現在に通じる、他者に通じる、そうした意義ある伝承かもしれません。



超党派地方議員の清溪セミナーで参加

広島市原爆資料館を視察見学

令和7年1月23日に原爆資料館を訪問

平和記念資料館は2棟の建物を連続して見学できました。館内の見学では、通して副館長さんが同行して丁寧説明をしてくださいました。



映像、写真、パネルの資料、あるいは模型的な資料でよりリアルで再現しようという試みが特徴でした。もう一つの建物は、被爆者の直接資料、(衣類などの身に着けていたもの、あるいは熱線で溶けたり、焦げたものなどが展示、あるいは個人の被ばくから死に至る歴史を写真と解説でストーリーをつづったものなどがあり、私が高校1年生の時に見たものを中心に、現在に合わせたものと感じました。*個人で原子爆禁止の広島大会に参加したのは、米が越のトンキン湾を強襲した時でした。

その時の印象、感想と現在が異なることは、世代が変わったこと、時代が大きく推移した事によって当然かも知れませんが、やはり、映像化されて時点でスマートになってしまった。されてしまった感があります。

もとより、ものが、事柄がそのままということはありませんが、一般事故でも、事件でももっと泥っぽさがありますが、ましてや、生身の人たちがいる頭上に、原子爆弾が落とされ、地上600m上空で爆発させると言うことがあったわけですが、リアルなものが少なくなっているのではないかと、そうした印象を持ちました。他方で、物事を直視することがどれほど可能か、これまた難しい課題が迫ってくる感じがしました。

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう!

○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、
2025年第55期生がスタート

ビックサイトで BizcrewEXPO を視察見学

東京ビックサイト(東京国際展示場)で開かれた BizcrewEXPO を視察見学しました。相変わらず、多数の企業が出展していましたが、企業(事業所)のDX化による業務支援を提起する舞台でした。

その中で、UPWARD というブランドのブースに立ち寄りました。「外回り営業を、もっと楽しく」というキャッチコピーが気になりました。「営業活動の見える化」と表現してよいのではないのでしょうか。顧客をランキングする方法は色別(あるいはABCなど)で表記し、訪問回数を大きさで表示していました。

訪問をしていない期間で大小を示し、本来Aランクの取引先であるのに、長期間訪問していない相手は大きく表示されていました。慌てて観たので、「楽しく」の部分をよく聞き出すことを怠りました。私は過去に営業職で、その業務自体を楽しくやっており、そうしたマイナス部分の話聞きそびれました。しかし、学生はどうも苦手意識が強い様です。

なお、このツールは議員の活動促進、情報収集のツールとしても向いているのではないかと思います。



全国の新進気鋭の工芸家の作品が並ぶ

渋谷のヒカリエを訪れた際、NIPONの47/2025 47の意思にみるこれからのクラフトを見る機会がありました。日本国内の47都道府県から各々一人ずつ、気鋭の工芸家の作品が選ばれ、展示をされていました。各都府県を代表する工芸品であり、これまでの伝統をそのまま守っているのではなく、様々に手を加えたり、あるいはそうした伝統とは一線を引いたかの如くと称すべき作品が並べられていました。選考基準は調べずに、47の作品を見たまわりましたが、確かに斬新な印象を受けるものがあり、それが旧来のイメージを塗り替えるのではないかと思える作家、作品がありました。



こうした、立派な新たな取り組みでも、どこまで根付くか、広げられるかと言うとなかなか難しい底面もあるでしょう。さらに、いわゆる伝統工芸を伝えていく、それを一般に買ってもらえる作品となるとさらにハードルは高くなると思います。職業して伝統工芸産業を選ぶと、それを制作したり、あるいは流通させたり、あるいは一般の消費者に一定の数量の販売をきちんと確保できるかと言う課題があると思います。まずは、新進の方々が新たな境地を開き、それを受け入れる消費者を引き込んでいく必要があると思っています。

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2025年1月末までに111名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。

◎第55期(2025年春季)インターンシップは、1名参加で1月末よりスタートしました。